

知的財産

日立は、知的財産(知財)戦略を重要な事業戦略の一部として位置づけています。「グローバル競争を勝ち抜く知財力の構築」をビジョンに掲げ、知財活動のグローバル化を

促進するとともに、社会イノベーション事業を支える知財ポートフォリオを構築・活用することにより、事業への貢献を図っています。

知財活動のグローバル化

事業に先駆けてグローバルな特許網を構築すべく、海外出願比率を2012年度までに55%へ引き上げる目標を掲げてきました。2012年度の海外出願比率は57%となり、目標を上回りました。これは、国際特許出願(PCT^{*1}出願)を利用し、グローバルな権利取得を進めたことによるものです。PCT出願は、1つの出願で複数国における出願と同等の効果が得られる出願方法です。2012年度は、特許出願全体に占めるPCT出願の割合が、23%に拡大しました。

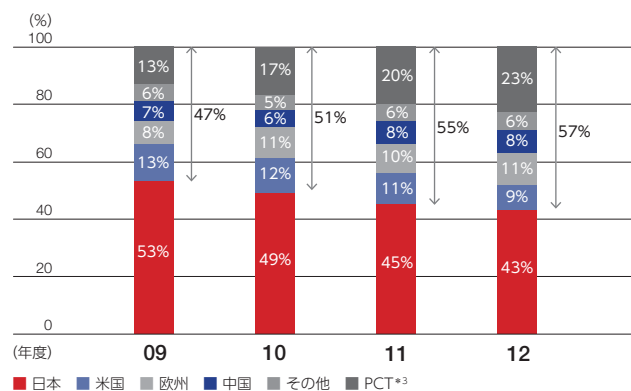
日立は、米国トムソン・ロイター社が選考する「Top100グローバル・イノベーター・アワード」を受賞しました。同賞は、トムソン・ロイター社が保有する知的財産・特許データを基に知財動向を分析し、世界の革新企業/機関トップ100を選出するもので、日立は「特許数」「特許の影響力」で特に高い評価を受けました。

さらに、海外研究開発拠点の強化に合わせ、2012年10月に中国の上海、2013年4月にドイツのミュンヘンに新

たな知財オフィスを開設し、米国サンフランシスコの知財人員も1名増員し、海外知財拠点を強化しました。

* 1 PCT: Patent Cooperation Treaty(特許協力条約)

日立の海外出願比率^{*2}の推移と地域別の割合



* 2 海外出願比率: 海外特許出願件数 ÷ 全世界での特許出願件数

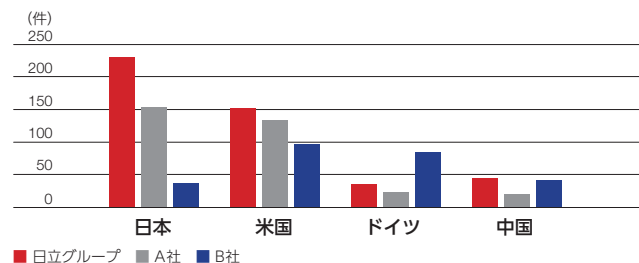
* 3 PCT出願は、特許権の取得を想定している国の数に換算の上、カウントしています。

事業を支える知財ポートフォリオ

日立は事業を支える知財ポートフォリオを構築すべく、生産国だけでなく製品・サービスの提供国でも知財ポートフォリオ構築を進めています。例えば、世界シェア1位の自動車部品「エアフローセンサ」は、日米で他社に比べて多くの特許を保有しています。今後は、ドイツや中国での出

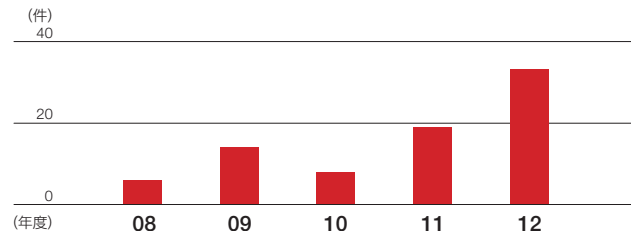
願を強化する方針です。また鉄道車両では、英国の都市間高速鉄道計画において優先交渉権を獲得した2009年前後に欧州出願件数を拡大させ、正式契約を締結した2012年には大きく出願件数を伸ばしています。

エアフローセンサ: 各社の保有特許件数^{*4}



* 4 日立調べ(特許情報サービス「Sharesearch」による)

鉄道車両: 日立の欧州向け出願件数^{*5}



* 5 欧州特許・意匠出願およびPCT出願の合計数

国際標準化に向けた活動の強化

日立では、国際標準化活動を積極的に推進しています。例えば、スマートシティでは、国際標準化機構(ISO)に新たに設置された分科委員会(TC268 SC1:スマート都市インフラ評価指標)で、日本が幹事国として選出されることに貢

献し、日立から輩出した人財が国際議長に就任しています。また国際電気標準会議(IEC)でも、電力エネルギー貯蔵システムの専門委員会において日本の幹事国への選出に寄与しました。